



詩歌鈔

瀟湘八景

鰲頭圖



瀟湘八景抄序

杜預トヨの庖サズ傳デン乃癖クセ有り。和嶠ニギハヤクの錢ゼンの癖クセあり。楊  
 氏シの愛アイ士シの癖クセあり。劉氏リウシの三サン乃癖クセ有り。ま  
 王家ウケの癖クセあり。〜もあ。次ツギの〜  
 待マテ氏シ好コトの癖クセあり。ぬる癖クセあり。あ。のころ倉クラ越ツの  
 乃ノより〜  
 癖クセらせや〜  
 と愛アイ〜  
 乃ノ其シ物モノ〜



人のすゝめけがらむまこと此の紫城のさう  
 小虫くまていさう小窓の眠とゆきまんと  
 さるの奇厥のぬき尋さうけい書物と見  
 るひさす梨棗よ乃ほはん事浅杯之里  
 滅ふやはれりこゝに人もあさからめとおと  
 ちりりこゝて先浅小字にうゝ小児の啼と  
 止むと黄とめぬ葉よか魚けりあのみり

貞享三曆探梅天 一翠書



瀟湘八景詩歌作者目錄

雪樵	南禪寺	瑞溪	相國寺	月舟	建仁寺	月翁	相國寺
天隱	建仁寺	祇蔭	建仁寺	雪嶺	建仁寺	桂悟	東福寺
周麟	相國寺	村庵	南禪寺	雪村	建仁寺	東沼	同上
竺雲	天龍寺	東岳	同上	雲章	東福寺	東旭	同上
唐人							
玉礪	南宋	許道寧	宋	董源	宋人	李唐	宋人
開同		范寬	宋	惠崇	宋		
洪滄浪	朝鮮人						
	天和壬戌年來于日本						

歌人  
 為相冷泉中納言  
 為兼二条大納言  
 明魏大納言長雅法名  
 頓阿



後小松院 人皇百代諱幹仁 永德明德應永永享  
 榮雅 權大納言 雅親卿  
 宋世 飛鳥井 雅康法名  
 為尹 權大納言 正二位  
 雅世 權中納言  
 桂祐 權少將源國永 法名也  
 逍遙院 西三条内大臣 法名堯空

詩歌作者 三十五人  
 詩負 九十九首  
 歌數 八十八首

瀟湘八景目錄終

瀟湘八景詩歌

瀟湘夜雨

玉碕 西湖淨慈寺僧

古渡砂平漲水痕

一蓬寒雨滴黃昏

蘭枯蕙死無尋處

短些難招楚客魂

全 雪樵 蘄南禪寺 正因庵寮曰雪樵 或曰善秀林仙館

浦雲作雨度江城

添得洞庭滯客情

瀟湘八景詩歌鈔

瀟湘八景詩歌鈔  
 瀟湘八楚國中ニアルニ水ノ名ナリ。瀟  
 水ハ道州ノ九疑山ノ中ヨリナカレ  
 テ。湘水ハ桂林海陽山中ヨリナカレ  
 出テ。靈渠ヲヘテ零陵ニイタリテニ  
 水ヒハツニナカレア。是ヲ瀟湘トハ  
 云也。コレ永列ナリ永ハ二水ノ心ナ  
 ルヘシ。此浦絶景ニテ天下ノ大觀ナ  
 ル故ニ詩人多ク心ヲヨセタリ。此處  
 ニ九疑山ト云山アリ。峯々九ツミヘ



逢底今宵可無寐

窓前疲馬啣其聲

全 瑞溪諱周鳳号

後土御門時人有集名卧雲藻相国寺

湘江夜雨不勝情

孤客舟中夢易驚

誰把一妃千斛淚

逢底滴作斷腸聲

全 月舟

湘南何地最多愁

班竹叢邊風雨秋

テイツレモヨク似テ疑キユヘニ九疑

ト名ツクル也傍ニハ蒼梧野ト云野ア

リ古虞舜ノ二妃娥皇女英舜ノ別

ヲ悲ミ給ヒ此浦ニ身ヲ放チ玉ヒシ

ナリ其廟所モ今ニアリト云ヘリ大舜

ハ賤キ田夫ノ子ナリ楚國ノ傍ニ瞽

叟ト云者ノ子ニテ重華ト云シ人ナ

リ孝行深甚ニ昔モ今モ並ナキ聖

人ナリ實母ニナレテ繼母ニツカヘ玉ヘ

リ繼母重華ヲ惡ミ實子ノ象ト云

今夜二妃難入夢

蕭々喚起辟陽侯

全 清泛三湘夜中艫

聽雨眠楚天聞過

鴈北客未歸船濁

酒飲無筭青燈冷

不煙對床工覓句

達且是新鮮

全 昏々風浪裏瑟瑟

々々

ル子トトモニ鼓曾叟ニサヘヲナレニ重

華ヲ害セシヲハカル或ハヤ子ヲフカ

セテ其屋ニ火ヲツケ焼コロサントレア

ルトキハ井ヲホラセテ埋ミコロサント

スレハ重華ツイニカレエテイヨク

孝悌ヲツクセリ堯王ソノ孝心ヲキ

コシメレ御女ノ娥皇女英ノ二女ヲメ

アハセツイニ天下ヲ譲リ玉ヘリ其後

舜三苗ヲ征ソ路ニテ崩レ玉ヘリ二女

コガシ慕テ紅淚ヲナカシ其カタハラ

々々



打逢聲騷客千年

恨靈妃萬古情

為兼タカス 二条大納言 玉葉集撰

おがふささゆり

秋のぬにうさねは

ほくろくろり

明魏タケギ 大納言長 雅之法名地

花山院左大臣實 雅公子

吳竹を深一佃や

あふんぼのうま

あまはひるる

ノ竹ニソ、イテ竹ミナ紋ヲナス。是ヲ

湘浦ノ班竹紫竹トハ云ナリ。竹班

湘浦雲凝鼓瑟蹤ト云ヘルモ是ナリ。

古歌ニモ紅ノコソメノ小袖ウヘニキン

戀ノ涙ノ色カハルヤト、忍戀ノ心ヲ

ヨメリ。血ノ涙ノコナリ。此事ヲ奥ノ詩

ニモ作レリ。サテ八景トハ八陰ノ極数

ナリ。地ハ陰ナリ故ニ八景トスルナルヘシ。

六景十景十二景ナト皆陰数ナリ。

此詩ノ作者古鈔ニ白居易カ詩トセリ

傾阿小野宮大納言 言能實マカ 代孫俗名泰

船ともし入にけは乃

何れも唐好る家

あはらけ

後小松院

水上れあるお家

更かけて雨を移さぬ

よれの浦風

為尹タメニ 冷泉大納言 中ね乃那子

をりし浦に來舟の

或説ニ東坡ガ詩ナリト云リ。皆アヤ

マリナリ。此詩ハ玉礪ノ作也。瑩玉礪

ハ南宋ノ代ノ詩人ナリ。善山水ヲ登

カケリ。惠崇ヲ師トシテナラヘリ。西

湖ノ淨慈寺ノ僧ナリ。圖繪寶鑑ニモ

其傳アリ。日本ノ登ヲ學ブ者玉礪ヤ

ウト云ハ此人ノ事ナリ。又別ニ孟玉礪

ト云アリ。是人モ詩畫ヲ工ミニセリ。其

外董源范寛許道寧李唐等詩

登ニ長セル者勝テカゾヘカタシ



吹乃うもす 横海に

今やまねん

雅世 飛鳥井中納言法名祐雅 古今撰者大納言 雅縁卿子也

袖ぬらひの常も  
わかれよまねん  
よれ乃むらぬ

栄雅 飛鳥井中納言雅親 法名文明 五年出家

うも枕かこく神  
波越くまも志ぬ

秋まれむらぬ

道遥院 西三条内大臣 實隆法名亮空 又号駐雪

竹乃紫の色深し  
同も承ふらぬ  
ほろたそ一歌

沙弥桂祐 権少将源 國永之法名也三 光院点并奥書

秋城ふらむらぬ  
高ふけは波も承  
枕りたうく



瀟湘夜雨

先自空の易勢免

凍雲粘雨濕黄昏

孤燈遙裏舳蕭瑟

祇向竹枝添淚痕

夕子よす歌浪又たうり

秋乃あま城と雨らわら



物乃多もすほみん  
管絃ららるゝ浪よ  
よねのちとくま

洞庭秋月

玉碇

四面平湖月満山  
一了螺髻鏡中看  
岳陽樓上聽長笛  
訪盡崎嶇行路難  
全 月翁 譚周鏡  
又号交芦相国寺僧也

瀟湘夜雨

先自空江易断魂  
凍雲粘雨濕黃昏  
孤燈逢東聽  
蕭瑟祇向竹枝添  
淚痕。此詩ハコノ浦ニ娥皇女英ノ廟アルユヘニ二妃ノ事ヲ思出テ全篇ニノヘタリ第一ノ句ハ二妃ノ事ヲ思フニナニトナク物ガナレキ故ニイマタ雨ノフラヌサキヨリ魂ヲタチヤスレトナリ心ノイタマレキヲ云ナリ一説ニ昔ノ舜ノ二妃ノ一ヲ思フニ其江ノ景

暮雪晴嵐眼底塵

瀟湘何景最驚人

洞庭七十朶巍峩

上有傾雲月半輪

全 瑞溪

夕照統殘淡似煙

何人緩步出村前

洞庭湖上月應好

欲倩漁郎棹夜舩

全 月舟 譚壽桂号

一華建仁寺僧編  
續錦綉段博識僧

ハ昔ニカハラ子凡人ハ過去テ空キ

江ナレハ三女ノ舜ヲ慕テ悲ミ玉ヒレ

事ナトヲ思出テ魂モキユル許モノア

ハレナルトナリ我心ニ哀ヲ催スユヘニ

ト、雨モ物サビレク思ハル也故ニ雨

フラヌサキヨリハヤ此浦ニイツレハモ

ノカナレキ也夕サレハ野ニモ山ニモ

煙タツ思ヒヨリコソモヘソムルナレ

歌ニ比ノ此句ノ心明カニナルヘシ。第

二ノ句凍雲トハコレル雲ナリ粘雨ト

子イヌアヌニ



氷輪ヒツリン逐影ツクカゲ洞庭波テイテイハ  
 今夜騷人詩興多コノヨノサウジンシキウタ  
 八百里秋天在水ハチヤクマイルクアキタミ  
 姒娥却是作湘娥シカカハツテシタカ  
 全 許道寧キョウダウネイ 学李成ガクシチヤウ  
 白水連天遠吳松ハクスイレンテンニトウ  
 一頃秋橋列水魄イツケンアキハシツクミツ  
 滿竹閣桂華留鳥マンチツカクケイカハルウ  
 鴈不飲咏魚龍興ガンインタクヨウイサリウキウ  
 拍浮垂虹寓今夕パフフスイチウキウイマ  
 清勝庾公櫻セイセイキョウコウオウ

公雲ハアメニツキ雨ハ雲ニツクモノナル  
 云ニ云ナリ。黄昏ハ暮方ヲ云濕トハ  
 雨ノフル体ナリ。三四ノ句モ二妃ノ事ヲ  
 思出テ作レリ。孤燈蓬裏ハヒトツノ  
 燈ヲトメノウチニトモレテサヒレキト  
 也。聽箏瑟ト西方ノ遊船ニ六簫笛ヲ  
 フキ瑟琴ヲヒク。其音管ブキノワガ  
 船ノ中ヘキユル也。コレニヨツテ湘妃  
 ノ琴ヲナト弾レテ思出テ感涙ヲ催  
 ストナリ。一説ニ夜ノ雨ナレハ蓬ヨリツタ

全 万頃玻璃上輝マンケンコウリンカミ  
 玉一環望中青似タマイツクワンボウチウキニ  
 粟薄暮是君山アヲモクハクハクニキミヤマ  
 為兼  
 波乃止千里の名跡ハナノトシチリノナノキ  
 影すんで月よのまカゲスんでツキヨノマ  
 は方々うらやハカタカタウラヤ  
 明魏  
 此の心は心にぬココロノココロハココロニ  
 えてくる火のまエテくるヒノマ

ヒトククト落ル声ヲキクニ琴ノ音ノ  
 ヤウニキユルナリ。迴檐点滴如琴筑  
 ノ意ナリ。サルニヨリ二妃ノ琴ヲ調玉ヒ  
 レテラアルト。今キクヤウニ思出スト  
 ナリ。コノユヘニ紫竹班竹ノ枝ニムカツテ  
 昔ノ哀ヲ思ヒ涙ヲソヘナカスナリ。涙  
 痕ハナミダノアト也。二女ノ涙ノアトニ  
 今モ夕夕涙ヲソヘルトナリ。殊勝ノ作ナ  
 リ。ツラク吟レ味ヒテミルヘシ。  
 船ヲナト弾レテ思出テ感涙ヲ催  
 ストナリ。一説ニ夜ノ雨ナレハ蓬ヨリツタ

八景詩

六



波乃上此月

秋何

すむるるも尾止  
海てぬ月をいふぬ  
秋乃山陰

後小松院

あはれうかたはつた  
阿まうたみもては  
月の影を

為尹

秋風も磯をた松の

とゆよりとれ志のくも我一か

け八景乃哥ハ冷泉中洲云為相の  
作なり。為相ハ定家郷の孫あり

大羽言為家乃乃子あり。たりろ

う野るれゆへもろこし此待よか

さうげ日午もも右人の詩あおほく

んてり。為兼明魏頓阿後小松  
院。為尹。雅世。采雅。逍遙院。桂祐。あ

あけ野まうよあれおあはげあ

乃心いあうらに松とよす終と浪

吹せひく月ようう  
すまられ節

宋世 ソラセ 從二位准中納言ニ樂軒

限をたき山のやち  
尺のつとく波の里  
月うらわけ

采雅

此月水浅く浦  
風よりぬきをれ  
秋空の波

逍遙院

乃喜たうもたすい海く志く

雨のゆふあういませれてさこぬ

ゆいなり。あうらり管よりく

れ志づくにうぬ乃あをば志き

あとあり。あをたぬなれくる

あはれこのゆい小待もし濕るる

といはくまら。あがあるああり。又

の院ハ大雨もくあるあつては

あうあさうらとていそれあ

下の句をこそされあり。



月影北窓の波  
影にてこぼり家裏  
秋風うき

桂祐

秋文てすろく  
心ゆくこれえん  
月成えれも

秋風月影の  
すひるをうきと  
ゆきをうきと

遠寺晚鐘

洞庭秋月  
西風剪出雲天  
万頃蟠波浴桂  
漁笛不知霧客恨  
木吹空影色道  
秋小空むる冷く  
あけて月成をうき  
おぼりあう波

玉碯

鐘送斜陽出暮山  
遙知煙寺隔前湾

山翁莫怪归来晚

欲待峯頭月上還

全 天隱 譚龍澤号  
黙雲建仁

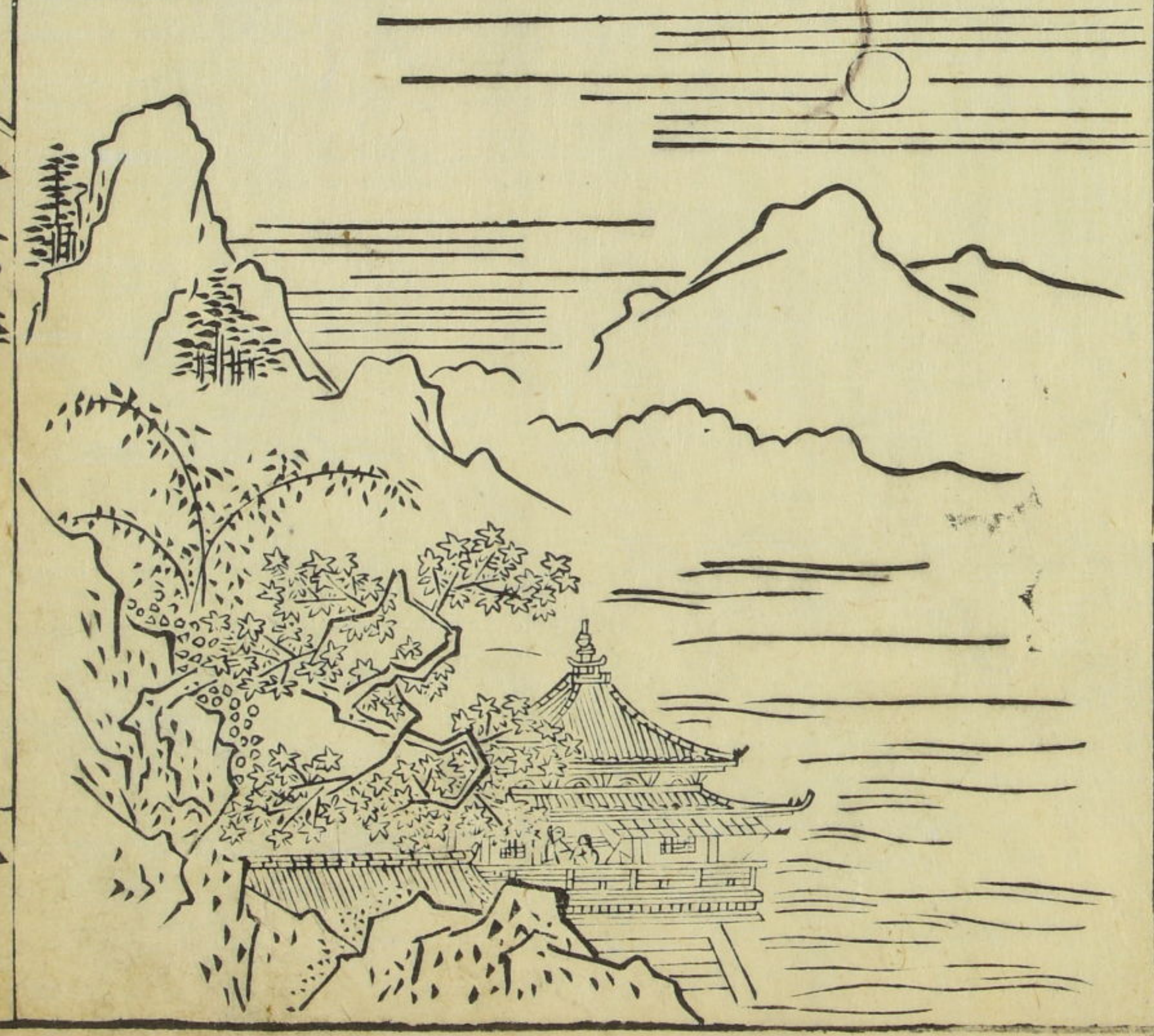
寺大昌院住僧也撰  
錦綉段有黙雲集

山童背笠伴僧行

偶訪村家喜快情

空翠湿衣飯豨遠

片雲碧合暮鐘色





同 瑞溪

紫翠陰々擁上方  
疎鐘幾杵向黃昏  
殘聲風外度湘水  
隔岸行人歸路忙

同 月舟

風送疎鐘度翠微  
山行踈險奈斜暉  
寒鴉飛盡杵聲急  
百尺長橋人獨歸  
同 董源 宋人畫南唐  
工畫山水

洞庭秋月

西風剪出暮天霞  
萬頃煙波浴桂  
花漁笛不知羈  
客恨直吹寒影過  
芦花  
○九疑山ノ麓ニ興アル洞アリ  
洞ノ中ニ樓臺ヲ作りテ月ヲ見トナ  
リ。第一ノ句ハ秋風ノソヨク吹ニ付テウ  
ス霞ノ棚引テイヲ云。西風トハ秋ナリ  
霞ハ春ニカキラスイツモアルモノ也。詩ヲ  
作ニ。霞雲霧煙四ツノ聳物ヲイツレ  
ナリ。其時ノ韻ニ随テ用ルナリ。此カ

金碧招提古高峯

最上層喧風僧入  
梵宿霧佛前燈  
觀延空寂蒲牢急  
震凌黃昏山踈險  
窮步一枝藤

同

僧定鐘聲緩  
依佛  
聽不真渡頭風正  
急喚醒赤滯人  
同 為魚

スミハ雲ト意得テモヨシ。秋ノクレツ方  
山ノ端ノ月モハヤホノメカント櫻上ニ  
ホリテミレハ。秋風ノモノスサニシクアラ、  
カニ吹出テ。彼山陰コノ林ノ奥ヨリ  
雲ヲハコヒ出ス躰ヲミレハ。天津空へ  
風ガ剪力出スヤウニミユルトナリ。万頃  
トハ頃ハ百歩ナリ。一万頃ハ三千里ホ  
トナリ。水面ノ廣ヲ云。煙波トハ波ノ夕  
ツガ烟ノ如クミユル体ナリ。波間ニ月  
影ノミヘツカクレツスルハユアミスルヤ



世よゆれ人御海よ  
望く也き山さ此  
木くれ乃後

明魏

今そうれおれ八言山  
わ後すして人さる  
入ねのか

北阿

岸うらじそのとれ  
寺又して磯山あま  
後乃きるか

ウナルヲ浴スト云ナリ。桂花八月ヲ云

水月ノ体ヲアリくと云出セリ。漁笛

ハ漁人ノフク笛ナリ。漢ノ丘仲ト云モ

カレカト云魚ノ鳴ヲキテ初テ笛ヲ

作レリ。丘仲吹之魚汀ニ集ルトナリ。

彼カレカハコロくと鳴ナリ。或哥ニ言

くと小石ナガル、山川ニ夜ハ明ケリ

トシカナクナリ。ト云く西風キリイ

タス如クナレ白浪ヒルガヘリテ波ノ

枕モサタニラス古郷ヲ戀ルノミニテ

後小松院

尻よとあうはとりなり  
重ぬたけりこれの  
入ね乃後

為尹

入ね乃後おれさる  
あうくれて落旁をひく  
おれんか立

宋世

重ふれ山くらむら  
字のあやほ世れあ

アハレヲ催スルヲリフレ。漁人カ笛打

フキテ月ニ釣ヲタレテ何心モナク芦

花浅水ノ邊ヲ打過ルナリ。羈客ハ

旅行ノ客ヲ云此詩人ミツカラ我ヲ

云ナルヘシ。漁人ハ羈客ノ心ニウレヒア

ルモシラス。釣ノイトナミニ心ヲイル也。

寒影八月ノサヘタル影ナリ。又イワク

羈ハトラキ旅ヲ云ハルカニ故郷ヲヘタ

テタル客ナトハ月ニハコトニフルサトヲ

思ヤリテ物カナレキニ笛ノ音ノア



入る乃子

采雅

は乃子れ入る乃子の  
とよみ結ぶ山乃  
魚乃古寺

道遥院

乃の徳ぬ尾上の鐘  
山煙霞水はれん  
後も乃りしと

極祐

乃乃乃乃乃乃乃

ハレナルヲ聞テ夕ヘヤラヌ体ナリ

秋よまじ水冷しくさよゆめて  
月桂ひしせれおの志は  
おのわびるなり秋はあもす  
さゆしよのありいんやあ  
月のうらみく水天一色なり  
乃と城さよふけのよあや  
さよめていよおのさ味ぬ  
う洞趣湖のていをありくと  
よせり

ゆん志つたゆむ  
入る乃かぬ

浦の鐘よりなる  
あまにゆりて

遠浦帰帆

玉碯

無邊刹境入毫端  
帆落秋江隱暮嵐  
残照未収漁火動  
老翁閑自説江南

遠寺曉鐘

雲底不見梵王宮  
教と鐘を所曉風  
は去上乃於寺を  
宿言只在此山中  
常の如常よあつるふ  
か子れ喜よ遠方心  
みらいそくあめ



全 正宗 諱龍統号  
群玉峯建仁寺靈  
泉院僧瑞巖弟子

一舸洞庭波上秋

天書落手北歸不

柳帆風順挑千里

不送誰門捨棹留

全 瑞溪

片帆飛去碧天涯

為報清風著意吹

落自湘江前路遠

南遊孤客北歸時

全 月舟

鴈雪已消春水多

飯帆萬里逐風過

請看一幅弓彎影

天未黃昏月落波

李唐 字備古善  
山水宋人

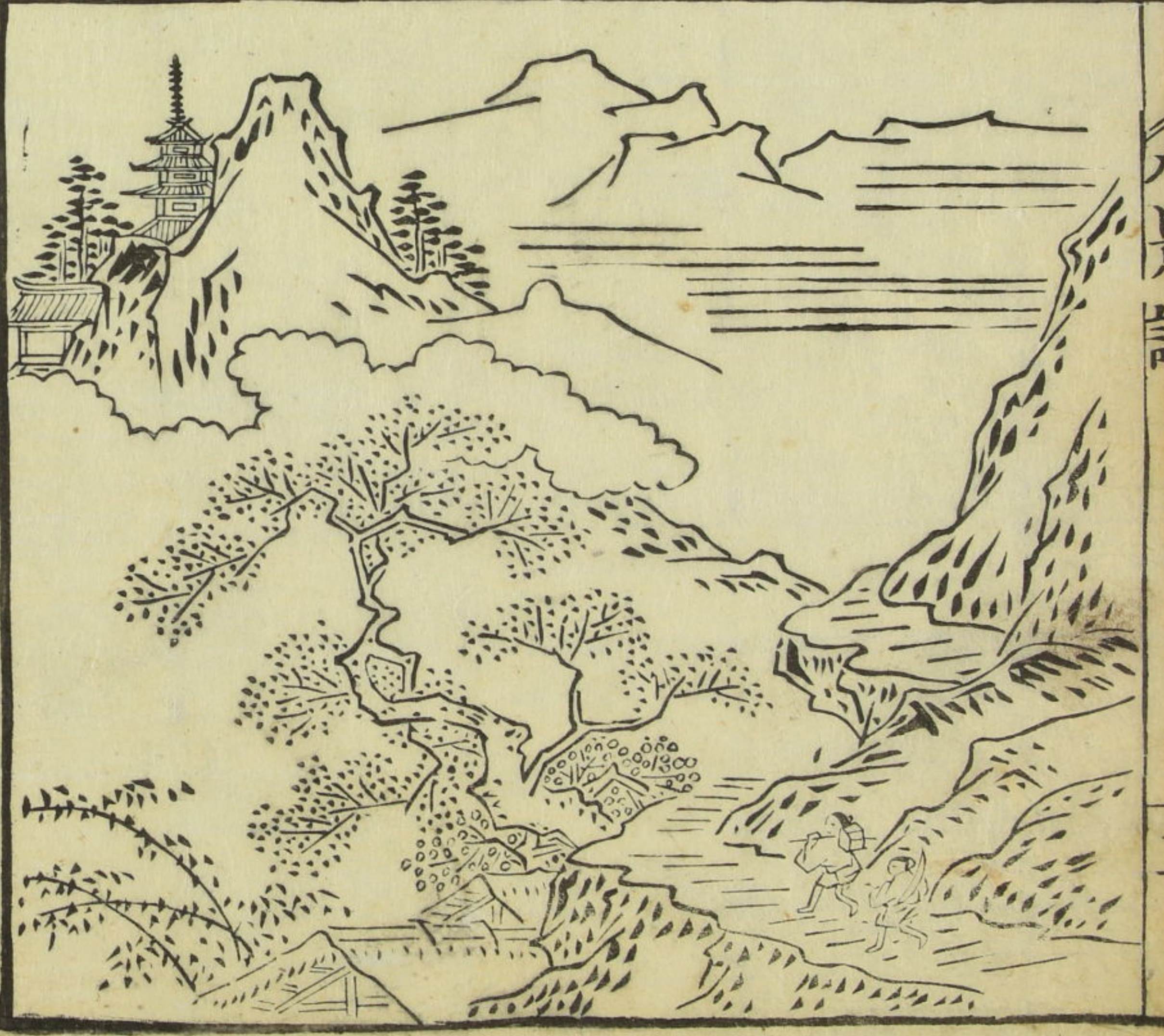
劈箭風帆下春江

不盡流客來登快

閣天際識飯舟裂

眦明千里觀身等

一漚斜陽疏木外



遠寺晚鐘

雲遮不見梵王宮。殷々鐘聲訥晚

風此去上方猶遠近為言只在此

山中。○全篇遠寺ノ晚鐘ノ体ヲアリ

くと作レリ。第一句ハ梵王宮トハ寺ノ異ク名ナ

リ。雲遮トハ遠キ山寺ナレハ雲ヲヘタテ、

見ヘヌソ。殷々鐘ノ郷音ク色也訥ハ此鐘

ノ声人ニ向テ訥訟ヲ云ヤウナルト也何ト

訥ルソトイハ今此鐘ノキユル寺ハ餘

ニ程遠クハアラス。雲サヘキツテ見ヘ子ト



五雨不遲留チリウナラ

全

八景滿湘妙歸舟  
更色絲根々煩小  
住我賦式微詩

為兼

漢亦まゝはれまも  
みつれ風まゝかひて  
こゑ久かりり

明魏

秋風北を吹海をわけて

頓テ此山中ニアルゾト訥ル也上方ト云

モ寺ノ名也。湖南ニ有之杜庵ノ義銛初

位鹿苑後住上方也。長列有鹿苑寺。見

江湖集註第三句作者ノ意ニ思ラク

寺ハ何方トモミハス遠ト思ハ又鐘ノ声ハ

アルト此寺ハヤカテ此山中ニ有ト告渡

ルヤウナルゾト也。近比面白キ作意也。

一説ニ猶遠近ト云ハ晚風ノハゲレク吹ナ

レ鐘ノ音風ニ随テ近クモ聞ヘ又遠ク

モ聞ヘテ寺ノ遠近モコレカタキ也。古抄

海士人の宿いそも  
かんばよまほかほの  
さけりかてり

松阿

海士人の宿いそも

かんばよまほかほの

後小松院

一松ありと海ひもをて

浦風北を吹いて海を

為尹

ニ梵王宮トハ須弥山ノ頂ニ梵王天ノイ

ラス所ヲ云也。句ノ意ハ瀟湘ノ浦ナ

レハ九疑山ノイタキニ古寺ノ跡アリ

テ朦朧タル雲霧ノ内ヨリヲホロク

ト入相ノ鐘ノ咽ヒクルヲ聞ニ彼山キワ

メテ高ク聳テ寺ハ見エス。雲中ヨリ

鐘ノミ郷音ケリ。扱ハ此入相ハ下界ニア

ラス上界ノ梵王宮ノ鐘カト疑ヒタル

体ナリト云リ異説ナリ。

八景奇

十三



新ちれよは新ちれよ此  
悔さんたは此か海の  
誘ならにけり

宋世

阿基任黒を新ち  
波誘とく思ふは  
か舟人

栄雅

言妙るる志帆か  
引せておれり  
ゆ舟人

逍遥院

とれうに漕ゆ舟  
阿舟小舟を新ち  
思ふ

桂祐

白雲にけけは波の  
立口れ今かり  
阿舟小舟  
立降り其れ紫糸  
棚舟小舟

とらかひ人もみらいきくあり

心は雲うらきまびらく著か  
時分入れば待てたれん  
ちにゆきふところ乃旅人  
ろたぐ阿成を止めゆく  
き方人のき記さびゆく  
とらこら人とかなる本阿わ  
と記のきさそと去伊勢物  
信濃なれあさ海れき  
と地あら人乃見やいと  
なぬ

き浦帰帆

鷺粵青山一抹秋

湖平浪接天流

歸櫓入道花去

家在夕陽江上頭

か機かむふ雲かうと浪

き門とみき津わぬな

かへ新ち舟人



山市暗嵐

玉礪

雨挹雲脚歛長沙  
隱々残虹帶晚霞  
尤好市橋官柳外  
酒旗摇曳客忠家  
全 祇蔭道号繼章  
嵐靄藏春屋數椽  
過橋材叟去忙然  
市門爭利錐力未  
水色山光不真綿



全 瑞溪

崑隈茅店似鷄栖  
竹樹荒涼踏欲迷  
無價青山人不買  
夕嵐留在市橋西  
全 壽桂  
花時山郭不全貧  
白髮耳為堯舜民  
風動青帘市邑散  
太平象在一盃春  
全 開同

遠浦帰帆

鷺界青山一林秋潮平銀浪接天  
流帰檣漸入蘆花去家在夕陽江  
上頭。○二ノ句ハ水上江山ノ体ヲ云ナリ。  
鷺鳥界トハ鷺鳥茲鳥ノ集リ居ル取ヲ云一林  
ハ林ハコスエトヨメリ。株ニ作ルハ誤リ也異木  
ヲコレエス青葉ハカリ一様ニミユルユヘ一林ノ  
秋ト云ナリ。意ハ青山ノ緑ノ中ニ白鷺鳥ノ一  
スギミユル体ナリ。或歌ニ松原ノミドリノコ  
ナタ飛サキノ真砂ニ落テキユルカケカナ。

八景詩

十五



藪澤赴<sup>スウタクシテアキラ</sup> 鹿久<sup>レノクテラ</sup> 崇朝<sup>シヨウチャウ</sup>  
 宿雨晴<sup>シヨウ</sup> 蒼崖林<sup>ハル。カウ。ガイ。リン</sup> 影<sup>カゲ</sup>  
 動老木<sup>キョウラク</sup> 日華<sup>ニツ</sup> 明野<sup>メイノ</sup>  
 店炊煙<sup>テンシ</sup> 濕溪橋<sup>シツセキ</sup> 流<sup>リウ</sup>  
 水聲<sup>スイセイ</sup> 音<sup>オン</sup> 帘<sup>レン</sup> 何處<sup>カニドコロ</sup> 是<sup>シ</sup>  
 彷彿<sup>ハハク</sup> 聽<sup>キ</sup> 鷄<sup>ケイ</sup> 鳴<sup>ナウ</sup>  
 全  
 旅亭<sup>リョテイ</sup> 新酒<sup>シンシウ</sup> 熟<sup>ジュク</sup> 下馬<sup>ゲバ</sup>  
 試從容<sup>シヨウジヨウ</sup> 頗勝<sup>ハナニカ</sup> 老岳<sup>ラウガク</sup>  
 對夕陽<sup>タイセキヨウ</sup> 三兩峰<sup>サンリョウホウ</sup>  
 全 雪嶺<sup>セツリョウ</sup> 諱永瑾又家識芦建仁寺

トヨメリ。言<sup>コト</sup> コロハ白鷺<sup>ハクキ</sup>ノ松ノ緑<sup>キナドリ</sup>ニウツラ  
 フトキハ見ユレ<sup>ミ</sup> 氏真砂<sup>ウヂマサコ</sup>ニヲリテハトモニツ  
 ノ色<sup>イロ</sup> 白キ故<sup>サキ</sup>ニ踏<sup>ミ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>失<sup>ウツ</sup>フト也。此詩ニ  
 カナヘリ。第二ノ句銀浪ハ浪ノ白キヲ云。  
 潮<sup>ウミナミ</sup>ニヤウクト廣<sup>ヒロキ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>レハ天ニツ、キテ  
 流<sup>ナカ</sup>ル、ヤウナリ。第三ノ句題ノ意<sup>コトバ</sup>ヲツ  
 ノ、吟<sup>ウタ</sup>シ出<sup>デ</sup>セリ。檣<sup>シヨウ</sup>ハホバシラトヨム  
 漸<sup>シヅカ</sup>ハセンくニト云心ナリ。帰帆<sup>キキ</sup>ナレハヨチ  
 タノ汀<sup>ミヅハ</sup>ノ芦原<sup>アシハラ</sup>ノホトリへ入<sup>イ</sup>サルトナリ。  
 芦花<sup>アシハナ</sup>トハアレノホヲ云ナリ。此体ヲ

如見院僧有集名<sup>ニホシノインソウウチノナミ</sup>  
 梅溪集後柏原時<sup>ウメノタニシノキノノチ</sup>  
 市倚山隈<sup>イチヨクサンノカド</sup> 深處<sup>フカドコロ</sup> 開<sup>ヒラ</sup>  
 過橋<sup>カキハシ</sup> 來者<sup>キタリノモノ</sup> 只求財<sup>シカニカネヲモトメ</sup>  
 朝山暮水<sup>アサヤマムシヅメ</sup> 不貪<sup>ヒカガハ</sup> 宝<sup>タカラ</sup>  
 日<sup>ヒ</sup> 幾人<sup>イカドクニヒト</sup> 空手<sup>カラテ</sup> 回<sup>マヅル</sup>  
 全 明魏<sup>メイケイ</sup>  
 松枝<sup>マツエ</sup> 松枝はむらさき  
 山乃市人<sup>ヤマノイチノヒト</sup>  
 何<sup>ナニ</sup> 何となく  
 何<sup>ナニ</sup> 何となく

ミレハ漁人<sup>イサノヒト</sup> 凡<sup>ニ</sup>ノ家<sup>イヘ</sup>ハ定<sup>サダメ</sup>テ夕日<sup>セキジツ</sup>ノサレウツ  
 ル入江<sup>イリエ</sup>ノホトリニアラントナリ。一説<sup>イチセツ</sup>ニ鷺<sup>キ</sup>  
 界<sup>カイ</sup> 青山<sup>アヲヤマ</sup>トハ界<sup>カイ</sup>ハ鷺<sup>サキ</sup>ノ多クムラカ<sup>オホク</sup>リ遊<sup>アソブ</sup>  
 フトコロヲ云。コレハ真<sup>マコト</sup>ノ鷺<sup>サキ</sup>ニハアラ<sup>ア</sup>ス。帆<sup>ホ</sup>  
 ノ多クツラナリカヘルヲサギノヤウニミ  
 タルナリ。青山<sup>アヲヤマ</sup>ハニトノ山ニアラス潮<sup>ウミナミ</sup>ノ  
 天<sup>アメ</sup>ニ接<sup>ツク</sup>メ流<sup>ナカ</sup>ルヲ一様<sup>イツナガ</sup>ノ緑<sup>キナドリ</sup>ノ山ニミタル  
 也。青山<sup>アヲヤマ</sup>ノウヘニ白鷺<sup>ハクキ</sup>ノ多クムレイル  
 ヤウニ思<sup>オモ</sup>ヒタレハ夕暮<sup>セキク</sup>ニカヘル帆<sup>ホ</sup>トモノ  
 多クツラナルニテアリレヨシナリ。界ハ



すけてぬぬ嵐よ  
ゆるく市人

後小松院

阿比良尾のよれ松

平清と林麻呂

さやれ市人

為尹

中をよきおぼし

立にたり市場北の

山をみゆく

宋世

サカフトモヨムナリ。青山ノ中ニ白ク水キハ  
ヲタテ、ハツキト見ユ体ナリ。

風むよをばうら流るみとみき  
はりきぬさねよかへふ每人  
○あ乃心いあれらるはるぬわりの  
をばいよ。海よとらんまは風吹あ  
れとあまあれいんをばのまも  
いひわけよあさり。とれと約す  
人もはりをやあさくゆあうを  
らあり

嵐少くおれこのま  
立まればは後くし

かへり市人

栄雅

みひの雲拂ふ嵐ハ

あさけし海を志す

あさけ市人

道遙院

山風のたつみ海をて

吾秋乃綿おひ

市人もあ

山市晴嵐

一竿浅碇斜陽裏

為族人家烟濤中

山路醉眠歸去免

太平無日不春風

松きりくさ雲よあう人老

みひの雲拂ふ嵐ハ

あさけ市人



桂祐

盆乃めくれおとれ  
市人のあひやあふ  
みねはらうも  
あはれふのさ  
あはれとく藤の里  
あはれとれ

漁村夕照

玉碕

一江晴自滿砂汀  
賣與魚來酒半醒



蓑笠未乾柳板靜  
一聲漁笛數峯青

今 周麟 景除寺  
晚浦罷漁無一翁

村々曬網鎖腥風  
江天亦入摸稜手

兩景半藏殘照中  
今 瑞溪

一抹江村夕日晴  
風光縱好有誰爭

漁翁收網已歸去

山市晴嵐

一竿酒旆斜陽裏數簇人家煙嶂  
中山路醉眠歸去晚太平無日不  
春風。○晴嵐トハ嵐ハ山氣ナリ霽ナトノ  
類ナリ。レカレバ天氣ウラカニヒヨリノ  
ヨキヲ晴嵐トハ云也。二ノ句山市ノ人  
家ノ体ヲ云。一竿ノ酒旆トハ酒屋ニ出シテ  
ク所ノハタサホヲ云。酒ハヤシノフナリ。唐  
酒屋ニハ旆ヲ色ニソメ詩ナトヲ染入  
テ門ニタテラク也。コレヲ酒旆トモ酒旗



湘竹西邊殘影明

今月舟

江雨連霄沙岸崩

得時儘欲曝漁罾

斜陽易落危峰影

又待明朝紅日昇

同

林表墮金鴉孤村

三兩家晴光明浦

淑紅影帶薰葭傍

舍收漁網隔溪橫

凡云也晴天ナルホトニ悉ク市人ノ家々

ニテモ見ユルナリ。煙嶂ハ煙ハケムリ嶂ハ

ヤコ也。遠キ山陰ニアル人家ニテ見ヘワタ

ル体ナリ。数簇ハ多クムラカリテアル家

凡ソ云山中ノ居如ナルホトニシホロニテ煙

ヤ霧ニ交テアル取ニテ晴渡テ見ユル

由ソツクレリ。三四ノ句ハ太平ノ時節ナ

ルホトニ諸国ヨリ市ニ立者凡酒ニ酔タ

ノレミテカヘルサノ遅キ体ヲ云。無日不

春風トハ世上ノオタヤカニユタカナル由

釣車炊煙未篝火

新月一鈎斜

今

落日寒潭靜西風

黃葉鳴鱸魚新出

網分我一林羨

為兼

氣志のいひはぬ

海を舟に里みゆ

とらかたは

明魏

ヲ云ル也。春風ハ万物ヲ生育スル温風

ナレハ諸民ノユタカニカシケサル處ナリ。誠

ニ太平ノ時節ナレハ秋風ノハケレキ時分

ニモ春風ノウラ、カナル思ヲナレテ樂ムヨ

シナリ。君力世ハ遠ノ竹屋ニ豊カニテカ

ラ又早田ノ稻葉ソヨメク。トヨメル歌モユ

ノ詩ノ心ニ通スヘシ。タカキヤニ登リテ見レ

ハ煙タツ民ノカトハ賑ヒニケリ。ノ御製毛

此詩ノ一二ニ應スヘキナリ

松を舟に里みゆとらかたは

とらかたは



昔の危し海は浪は  
程きり入るつなけ  
あふれと縄

頃阿

名刺が夕日此波  
舟うせてあつとすふ  
あふれあふ人

後小雲院

夕はくはつる様  
入浪ふいさられ毎の  
あふれあふ人

何しふ志のいじらさのま  
○あつらひ峯に木たき松とりとれ  
やふたふつらうと山ゆきのま  
嵐吹くしとれし雲乃雲  
先の雲あもみとつくと晴ゆく  
うらにまの峯よりとれし雲よし  
をよめれなり。晴嵐の野の天氣乃  
とれしうらと風もぬぬのともなれ  
作と化まりとれとあふの嵐のそよ  
くと吹くしとれし雲乃雲

為尹

浪めく細き舟で  
みてらり夕日と向ふ  
里村

宋世

是夕夕風けりも  
とらこら海は浪や  
あふれあふ人

宋雅

波とや海は浪は  
何れもあふれあふ人

漁村夕照  
為尹  
浪乃色入日の初  
なれみと磯さくらた  
木かく隠れやと



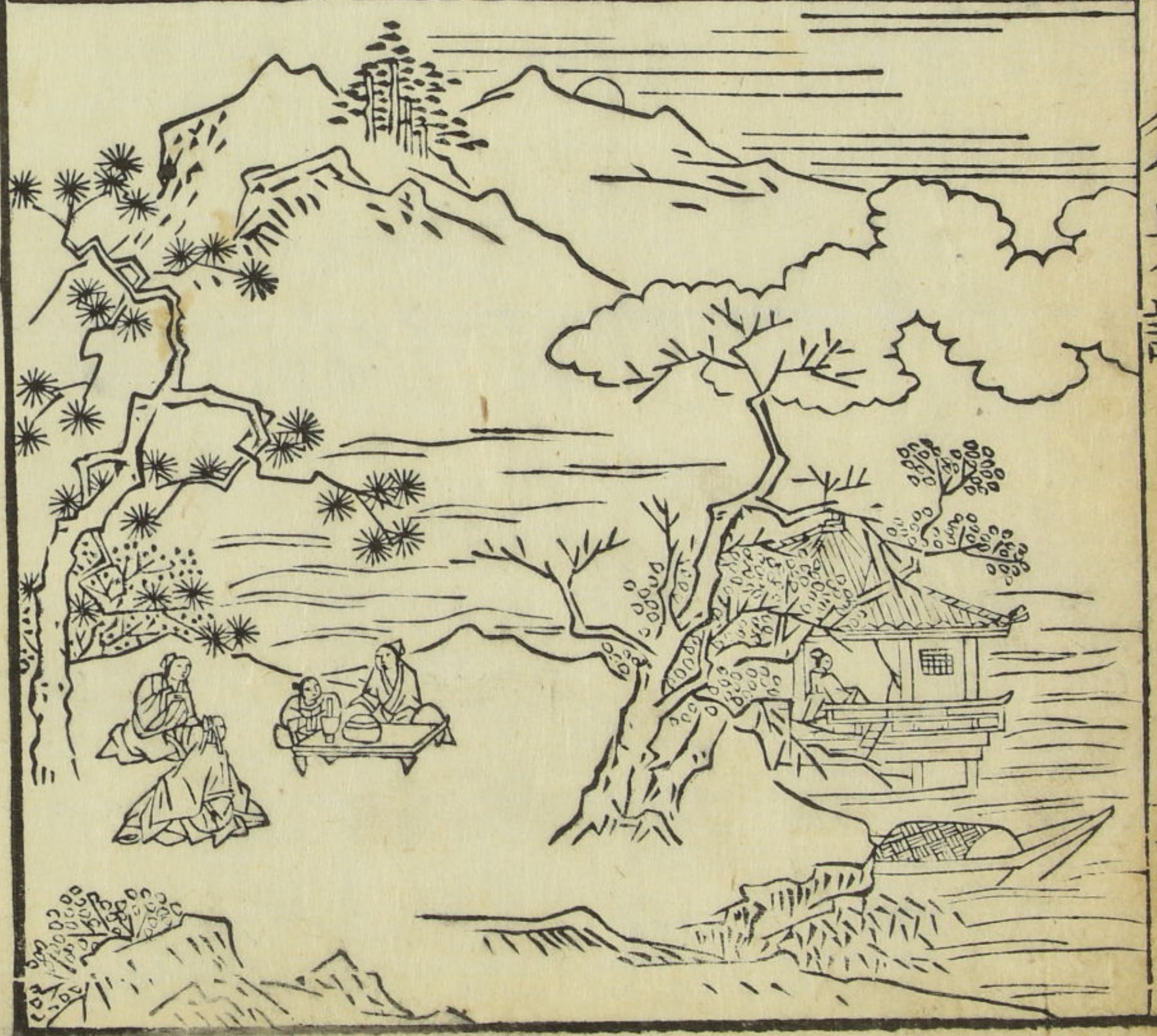
磯乃山り

道遙院

何れ夜もいそいで  
其れに入する  
夕暮る此見

桂祐

いりて海家し  
夕日影も磯山松よ  
何れ也ももや



うらけり

江天暮雪

玉礪

万里江夫万里心  
飄々花繁麗平林  
橋横踏断馬蹄滑  
更説藍關博不禁

公 雪嶺

朔風吹雪暗江干  
薄暮行人來往難  
贏得孤村三四屋

漁村夕照

薄暮沙汀惑亂鴉  
蝦呼童買酒大家醉  
荻花 漁村ハ漁人トモノイル村ヲ云ナ

リニテ句暮方ニハ江ノ邊  
コノ林ナトニ鴉ハカナラスヤトルモノ也群

鴉トモガイツカタニヤトラフスト以テ那  
邊ミダレ飛体ヲ乱鴉ヲ惑ストハ云ナリ  
江南江北開魚蝦トハ是漁人凡ガカリ  
レアトニ魚蝦トモガアチラコチラトシテ



生柴煖酒不<sub>レ</sub>寒

又

万頃玻璃一葉舟

長天雪暗夕陽收

寒愁豈<sub>レ</sub>當<sub>レ</sub>孤篷客

山亦白頭波白頭

全 瑞溪

漫天風雪暮江濱

飛鳥行人無<sub>レ</sub>往還

山共湘娥愁底事

無端白盡翠螺鬟

水宿スル体ヲ云。又ハ漁人氏ノアチコチ

ニ多キヲモ云也。三四ノ句ハ漁人トモガ釣

ヲヤメ歸リ來テ稚子トモヲヨヒ酒ヲカ

イ求テ飲醉テ西風ノ荻花ヲ吹ヒルカ

ヘスヲ卧ナカラ。打ナカメテ日ヲクラス

ナリ。日クレノ体夕日ノカ、ヤク磯ハタニ

漁人ノ居体。自ミミルヤウニヨク云カナ

ヘタル詩ナリ。大家トハ富貴ノ人ノ家ヲ

云。又ハ酒旗ヲタテタル酒屋ハ棟カトガ

高クテ漁翁氏ノ住宅ヨリハ大キニ家

全 月舟

湖南冬暖似春然

怪底山々暮雪連

應是湘君新白髮

波心影落鏡中天

全 范寬

朔吹掃氣埃同雲

暝不開千山飛鳥

盡一水游舟回波

面方鎔采林梢已

凋魂懷人留剡棹

作リスルヨリ酒屋ヲモ云也。又ハ漁人

トモノ何ノ思モナク。我分際相應ニ樂ミ

テ。醉卧タル知ノ身ユタカニ躰ユルヤカ

ナルヲ指テ大家ニ酔ト云ナルヘシ。又ハ

此作者大家ニ酒ヲ求テ酔タノレシニテ

卧ナカラ乱鴉魚蝦ノ汀ニ集ル体。漁

人ノ歸ルアリサ。江ノ邊ノ芦花ナトノ

白妙ナルヲ。秋ノ夕風ノ吹ミタレケルヲ

ナカメヤリテ感ゼイル体ナリ。カヤウ

ノ景象ヲ賦セル詩ヲ。其作者ニナ

八景詩

七二



野店且新醅

全

六月三山底城中

似甌中客来開短

軸乱雪舞江風

同 為兼

著うみ入いの波を

多りあけはせむ

雪よかりりく

明魏

著かぬ入に乃ゆハ

リカハリテ其景氣ヲウツシカヘテ其

作意ヲアチワラヘシ心イシ景氣ヲ

大ヤウニ見過テハ詮ナキ事ナリ

浪乃多は入目の松よれみえく

磯と云くくれば木く積の宿

の波より海上は見えはは日乃著

かゆせあは浪のくよは日影のせい

ふ川まきあはるくくは日影のせい

うさりりくくくくくくくくく

江天暮雪

雲淡々但揉む暮

舟舟一葉寄吐刃

前湾唯乱数群櫓

艮是山陰系與人

蒼乃地ふかき取雪も

あはれえれみえはの色ハ

揺るふ舟ももあ

尺のワくく波まは

頓阿

磯山のこすえハ雲の

志のまて夕は波よ

跡の塩く粉

後小松院

後北の河に川とあり

五るくくよおれおぬ

雪れよりころ

為尹



山は乃入にあり  
うねりいけりたむじ  
みねの白雲

宋世

風をてらぬ香と  
あは波の入にあり  
河のしる立

栄雅

あは波の入にあり  
隙もあく風は立  
雲れきたる波



道遙院

いしりまか入にあり  
ひるまききり夕陽の  
落きれり

桂松

芳かぬ言はきき  
あは乃入にあり  
こけり船人  
おれはまはも乃あり  
ぬれにあり

江天暮雪

雲淡天低糝玉塵扁舟一葉寄吟  
身前湾岬軋數聲擗疑是山陰乘  
興人。○心ハ雪ノフル時ハ雲ガマヒサカツ

テ。天モヒキヤウニミユルヲ雲アハク天  
低ト云ヘリ。玉塵ハ雪ノ異名ナリ。糝  
ストハ万樹ノ枝々ニ米ノ粉ヲフルヒカケ  
タル如クニウス雪ノフリタルヲ云。第二句  
扁舟ハ小舟ナリ。一葉トハ貨狄カ古事  
ヨリ出タリ。吟身ハサマヨウ身トヨム。

八景詩

七四



平沙落鴈

玉碇

點々隨群舊處栖  
蒹花芦葉暗長堤  
天寒水冷難成宿  
猶自依依怨別離  
全 桂悟道号了庵 東福寺  
飛鳴何處晚相呼  
影落平砂迷有無  
舍鳥隨陽青老矣  
失群栖泊一江湖

流浪ノ此身ト云心也。又詩ヲ吟スル身  
ト云心モアルベシ。三四ノ句ハ雪中ノ故事  
ヲ取合テ云。前湾トハ三ノ入江ヲ云。啣  
嘯トハ曲ノ異名ナリ。文選ハ鴻雁ノ鳴  
声ト注セリ。又槽ヲラス音雁ノ声ニ似  
タルモノ也。コハ槽ノ声ヲ云ナリ。我ノミ  
ナラス。此風景ヲ詠ル人舟ニ乗ノ通  
ルヲミレハウタガフラクハ此山陰乘興  
人カト覺ユルト也。コレハ晋ノ王子猷ト云  
風流ノ人。雪ノ夜ニ我友ノ戴安道ヲ

全 瑞溪

冥飛無意問飯程  
湘水南邊下晚晴  
聖主上林猶射獵  
青雲不似白砂平  
全 月舟  
平砂渺々雪初晞  
何事先花催北歸  
定識春深行不得  
湘江有此鷓鴣飛  
全 惠崇

トブラヒテ小船ニ乗テ行ニホドナク夜モ  
アケレハ夜中ノ雪ノ風景アサニナルホ  
トニ乘興而來興盡テ歸ルト云ニ。剡溪  
行タレモ安道ニ不逢シテカヘルゾ。今其  
古事ヲ用ルナリ。事文類聚ナトニアリ。  
晋書列傳五十二傳アリ玉徽子アサナ  
ハ子猷王右軍義之ガ子ナリ。ツ子ニ竹  
ヲ愛ノイワク何可一月無此君邪  
山陰ハ代々王氏ノ人居處ナリ。後  
京極攝政ノ哥ニ山陰ヤ友ヲ尋シ



漂泊楚夫長オホ同群シ  
 兄弟行朔風離塞ケイテイツラハサカフサカシ  
 漠落日下瀟湘古ハクラクジツクタル  
 碩多葭茨平田足サクワシカタンニイテン  
 稻梁飛鳴渺空際タラシヤホオイ  
 布武作文章シテアラツルブンシヤ  
 全  
 翻ニク數行下灘磧カワクタルダシヤ  
 俯蒼波此處稻梁フスサツハニノコロタラヤ  
 好人間ヨシノミ矰繳多ソウシヤク  
 同 為兼

跡アトフリテ只タイニシノ雪ノ夜ノ月  
 あり乃紫よかまじり雪もゆふの  
 みさくられ多いゆふへより  
 〇雪はたにかりかゝる雪乃あつたは  
 といひけし津よりし紙体をさるる  
 かゝる雪はゆり津よりさるる時汀  
 色日ハくれれともむれしとく  
 いひも何きうらみ  
 聊チウモウ望もろりたていし感懐カンセイあさ  
 ろぬうらみなり

ありくよ草クサ此居ココの  
 なくまのミチ家ヤ難ナシか  
 友トモくクしシ  
 明魏  
 むと浦し波ナミく風カゼや  
 何ナニのうウに又マタ立タチゆり  
 おつかりオツカリ  
 此河  
 け事ケコトむムじジふフ波ナミ海ウミや  
 意イかんカン剛ガウ倚イ休ユむ  
 かり此心ココロとつツ

平沙落鴈  
 古字書コジショ完カン漢カン墨ボク撰セン  
 幾いくの秋アキ居イ下カ事コト丁テイ  
 舊キウ花カ借カ化カ衝クウ海カイ雪セツ  
 誤アヤ向キョウ斜シャ陽ヤウ刷シャ凍トウ翎レイ  
 中ナカのあアさサ秋アキ等トウ人ニン乃ノ友トモよ  
 〇雪はたにかりかゝる雪乃あつたは  
 といひけし津よりし紙体をさるる  
 かゝる雪はゆり津よりさるる時汀  
 色日ハくれれともむれしとく  
 いひも何きうらみ  
 聊望もろりたていし感懐あさ  
 ろぬうらみなり

八景抄

六



後小松院

湊田もくも屋舎れ

秋され子天苑友も

とられ山平

為尹

阿ふけ屋新也

我れをん志妙も是

うこれの

宋世

白妙乃志妙ふじれ

ぬれ屋の定とふも



扱やめん

栄雅

玉書此のあもも此

初みきく涼のあ妙

おのちかりも

道遙院

字同はゆんはあ

けか友ふも

心ゆりあり

桂祐

求食とてありる屋

平沙落雁

古字書空淡墨横幾行秋鴈下寒

汀芦花錯作衡陽雪誤向斜陽刷

凍翎。題ノ平沙落雁ノ体ヲ全篇ツ

クリ出セル詩也。第一ノ句ハ雁ノツラ

ナリ飛ナリヲ。文字ニ見タテタ事ア

ルユヘニカク云ナリ。淡墨トハウス墨也。

秋夕ヘノモノレツカナル折節海邊

ニ立出テミレハ碧ノ天ニ文字ヲ二三

行薄墨ニテカキタル体ニ似タリト也。

八景本



西風は江の岸も  
 秋そくくまり  
 うらまのちる水も  
 天津原のさかたて  
 何れもこぼれ  
 蕭々風系詩人  
 女子やまもこの此  
 云は葉はくして詠  
 り跡の海山もあま  
 く思ひ捨るは海平  
 舟の玉は拾ひに天は  
 ち

ソレヲヨクくミシハ雁ノ汀ニ飛下ルテ  
 アリシ也。江ノ邊ニ蘆ノ花カ白妙ニ  
 多ク有ホトニ雁ガコレヲミテ雪カト  
 アヤルナリ。衡陽ハ衡陽郡ト云カ衡  
 列ニアリ。日本ノ富士山ノ如ク四季トモ  
 ニ雪ノ積ル国ナリ。此處ニ回雁峯ア  
 リ。鴈コニ至テトニルトイヘリ。此芦  
 花ヲ雪カトアヤルホトニ斜陽ニ向テ  
 凍翎ヲカイツクラフト也。凍翎ハコホ  
 レルツバサトヨム。芦ノ花ノ白クムラガ

とみけり前のさぬ  
 子心けりまゆり  
 八衢は心持まのふ  
 海山のふささあや  
 いづれまよふと  
 江東抱子西槐叟判  
 桂祐詠三光院ぬ之  
 風書也

リタルヲ誤テ雪カトオモフホトニ  
 ノガツバサモホリトチラレツラン  
 ト思ヒテ。夕日ニ向テコレヲツクラフ  
 トナリ。雁ノ心ヲ推量シテ作レル詩  
 也。此意ヲ鴨長明ノ歌ニ寒夜ノ水  
 鳥ト云題ニテクモリユク月ヲハシラ  
 デラク霜ヲハラヒエタリト鴛鳥ソナ  
 クナルト讀リ是ハサヤカナル月ノ夜  
 ツハサニ霜ノヲキタルヲミニテ鴛鳥サ  
 キーレキリナレバ聲ヲレモタテカ

景本  
 七八



宋復古八景圖

洞庭暮靄○廬阜

秋雲○平沙雁落

○遠浦帆歸○雨

暗江村○雪藏山

麓○泉岩古柏○

石岸孤松

○燕山八景

薊門飛雨○瑤嶋

春陰○大夜秋風

○盧溝曉月○居

子テツハサヲツ、メテ居タルヲリフ

シ。雲ノ一ムラヲホフテ月ニカ、レリ。

其時鴛鴦ヲノガ翅ヲミレバクラクテ

霜ミヘサルホトニ。翎ノ霜キヘタリト思

ヒ喜ニテ友ノ鴛鴦ト聲ヲカハスナリ

ソレヲハラヒエタリト鴛鴦ノ鳴ナルト

ヨナリ。此詩ニヨクカナヘリ。

まのあまのけりをた友よあそび

たうゆくもまもくもあこ

先あまのけりへたへとりて。昔をこに食

庸疊翠○玉泉垂

虹○道陵夕照○

西山晴雪

関中八景 在長安

渭城朝雨○驪山

晚照○灊橋風雪

○朝川煙雨○杜

曲春遊○咸陽晚

渡○藍水飛瓊○

終南疊翠

桃源八景 今常德府

とろとむね宿食乃は様わりと

あふまり。とりぬあ友よさあれ

ををよひゆかりあともひあ

よし。あ宿食の空をわ

あせれうし。想志く鷹城

かくに飛鳴宿食乃は様わりと

あ。あ宿食乃をあくよ海

あれうらあけりた。作を

あ宿の三ツをりあ。又あ

あユこれをみる入



桃川仙隱 ○ 白馬

雲濤 ○ 綠蘿晴晝

○ 梅溪煙雨 ○ 潯

陽古寺 ○ 楚山春

晚 ○ 沅江夜月 ○

童坊曉渡

湟川八景

萬川八景 今楚州の南軒有賦 在萬州郡 生有詩

さう体をまろふたり。さだの益工は

成らん待をばらりていさ。沙頭雨

三鴈波面幾莖蘆といへ。あのみを

汀よわいのまげれ体をまろりその

中よいつくぐり乃雁のゆんをもち

らんと入業志をわいひく

はくまふれと想して詩歌益な

ハ業かえめ小意味乃ゆらけよ

——とせれあり

溱湘八景 和漢詩歌補遺

江天暮雪

村庵

江風吹雪 如沙簑笠 何堪歸跡 賒薄暮沉

沉今浦暗 茆檐白處 露人家

雪村

玄冥乘坎 驅滕六 萬象驚寒 忙退縮 何處收

綸罷釣客 烹鮮煖酒 燃湘竹

全

天隱

江夫欲暮 雪霏 罷釣維舟 傍釣磯 沙鳥不

飛人 不見 遠村 只有一簑 歸

全

東旭

八景補遺

七



万里清湘雪霽空諸峯玉立水西東漁翁不  
覺暮寒重醉看江天飛絮風

全

漁舟雪暗暮江涯景到明朝暗後奇七十二  
峯波底影羣仙騎鶴下瑤池

全

薄暮凍雲凝半空尖山雪後玉玲瓏而今昭  
代徵賢急怪底江干一釣蓬

全

無限江村雪滿船愁雲遙接洞庭天此間正  
似山陰夜誰詠當時招隱篇

朝鮮國洪滄浪

山市晴嵐

影南

東福寺桂昌菴僧諱英  
普廣相公下火

一刻千金春夜月寸陰尺壁暮山嵐市人唯  
競日中利豈識奇珍在不貪

全

默雲

山郭迎春鮑酒旗市人半散樹陰移溪橋欲  
晚馬蹄開要及歸雲未谷時

全

雪村

一簇人家倚層巖相逢多帶烟霞面世上興  
衰曾不知只圖新貴米還賤

全

洪滄浪

迢迢山市雜雲林宿雨初晴嵐氣深天外亂

景補遺

正一



峯時出沒坐看蒼翠萬重陰

遠浦歸帆

譚等連天龍寺妙智院僧講  
漢書有集号載系雲共景

孤帆遠帶夕陽歸浦面風生去似飛翠竹白沙新月下漁童相待倚柴扉

全

遠江日落一帆過延停蒼茫立巖阿祇合舟行堪夜潮人間何處不風波

全

默雲

天際青連何處山歸帆浦遠却如閑風吹十幅弓寧影萬里東吳一餉間

全

洪濤浪

洞庭湖濶水連天吳楚東南望渺然一片歸舟向何處孤帆影盡自雲邊

滿湘夜雨

雪村

孤舟一夜湘江上芦葉蕭蕭添雨響逐客不眠愁更多細哦白髮三千丈

全

水濶雲多天少清黃陵廟前雨連明維舟一宿髮為雪想見湘娥夜々情

全

東沼譚周巖号祥光建仁寺栖芳院住持  
好讀莊子有集名流水集

潇湘聽雨宿孤舟滴々分明子斛愁虞舜不歸天亦泣餘聲灑竹半江秋



全 漁湘夜雨圖 同

玉堂天上置瀟湘。夜雨聲懸竹葉傍。十二鬢  
髮何事綠蓬窓。客鬢白於霜。

全 默雲

班竹叢邊夜雨聲。湘江漁父夢頻驚。船窓濯  
足。耻兼瑟。惆悵滄浪水未清。

全 洪滄浪

夜雨蕭蕭。班竹枝。至今瑤瑟使人悲。千歲帝  
子無窮恨。只在瀟湘夜雨時。

全 洞庭秋月 雪村

湖面無風銀漢靜。波心浴出寒蟾影。乾坤清

然沁詩脾。有客登樓忘夜永。

全 東岳 嵯峨一条禪閣第也

水墨屏中作。卧遊洞庭何必棹扁舟。湘娥數  
弄波心月。十二風鬟翠欲流。

全

湖南勝景洞庭秋。清絕殊思今夜櫻。風捲微  
瀾三萬里。碧瑠璃上月西流。

全

花於京洛獨誇古。月至洞庭初是秋。八百里  
波風不起羣山如畫。岳陽櫻

全 默雲



岳陽樓上倚欄干。萬頃滄浪孤月寒。吳楚東南隨水去。怪看七十二峯殘。

全

洪滄浪

洞庭茫々天地間。遙通蒼海去無還。入夜滄波金不定。依々明月照君山。

遠寺晚鐘

默雲

寺自何年住翠微。疎鐘殷々又斜暉。杵聲漸斷山村黑。鴉已飯時僧未歸。

孤塔雲埋古梵宮。疎鐘梵杵落山風。明朝定可江村雨。聲噎濛々煙霧中。

全

瑞巖 譚龍惺号 蟬閣建仁寺僧江西弟子也

煙際招提暮靄寒。疎鐘杳々度重巒。何如長樂退朝後。花外斜陽數杵殘。

全

寺在烟霏紫翠間。晚來鐘動更清閑。此聲先落漁翁耳。罷釣獨歸芦葦灣。

全

洪滄浪

山寺烟深落日曛。上方迢迓隔塵氛。沙邊水鳥驚飛去。時有鐘聲出白雲。

漁村夕照

雲章

村路人稀夕照幽。暮鴉落木水悠悠。遺賢已作朝家佐。卧楫衣生舊釣舟。

景甫遺

九日



全

默雲

茅屋參差簷不齊。沙村竹樹踏常迷。漁翁醉  
著赤奴網。山遠斜陽西又西。

全

東沼

世上風波多是非。白鷗舊社好志機。漁家亦  
識官相急。送盡斜陽釣未歸。

全

洪滄浪

水國微茫遠樹稀。漁村落照正依依。暮潮舟  
在柴門外。知是漁翁罷釣歸。

平沙落雁

東沼

一夜鴈王呼。雁奴銜蘆飛過洞庭湖。晚風吹

落數行影。陳平沙八陳圖

全

默雲

渺渺平沙芦葦風。幾行旅雁渡秋空。前群欲  
下却驚起。初月雲間影似弓。

全

洪滄浪

雁別胡天。一涯滌湘江畔宿。芦花時隨明  
月浮寒水。更度孤烟下白沙。

滌湘八景圖

村菴

聞說滌湘天下奇。我知八景不同時。如今併  
入畫圖裏。便是江南覺範詩。

便尚八景

雪嶺



景至テ瀟湘ニ集アツクテ大成其山其水筆縱橫縦横登ノボリ師モ尔ニ  
慣無オモツテ絃ニ趣ヲモヒキツモシ烟寺晚鐘聞不聲キクレ

瀟湘八景詩歌補遺 畢

貞享五年戊辰二月上澣

官川一翠子道達輯



洛下書林 風葉軒 繡梓



